



「在日コリア」社会における「民族的アイデンティティ」と「伝統芸能舞踊」に関する一考察: 京都・東九条「マダン」祭りの事例から

国際関係研究科博士後期課程2回生 徐希寧

目的

戦後から今日に至るまで、「在日コリアン」社会において、「伝統芸能舞踊」がどのような意味を持っているのか、また、「民族的アイデンティティ」の変遷（形成・維持）においていかなる役割を果たしているのかを検証することを目的とするが、その場合、「在日コリアン」社会における「伝統芸能舞踊」の受容の実態よりマイノリティとして生きる日本社会における「民族的アイデンティティ」はどのように構築しているのかについて検討したい。さらに、戦後以降、韓国から「在日コリアン」社会への伝承・維持・発展を歴史社会的観点から具体的に検証することとしたい。

フィールド・ワーク

京都・東九条「マダン：広場」祭りにおいては、まず、実行委員会メンバーとして月に2回~3回程度の実行委員会会議や、各演目（プンムル・サムノリ、マダン劇）などの練習に参加し、本番の当日は司会を勤めさせていただいた。



第27回マダン祭り活動写真(出典:東九条マダン公式ページ <http://www.hr.madang.com/>)

内容

1. 戦後から今日までの京都・東九条地域における朝鮮半島をルーツとする在日コミュニティ社会の変遷（形成・維持・発展）の検討
2. 日本社会における「在日コリアン」が朝鮮民族の文化である「伝統芸能舞踊」の継承・維持・発展する中で、京都・東九条地域で行われている「マダン」ではどのように現れているか、また「民族的アイデンティティ」をどのように考えているかについての検討・考察
3. 「マダン」祭りにおける「マダン」の実行委員会の在日コアメンバーや、地域のコミュニティ社会の在日構成員のインタビューから見る「民族性」と「地域性」についての検討・考察

今後の課題・展望

1. 先行研究では多文化共生と「民族」祭りのあり方をどのように考えていくのかを比較検討
2. 「在日コリアン」が「民族」祭りを通じて感じ取る「民族性（アイデンティティ）」を究明することの必要性
3. 「民族」祭りにおいて、中心的役割を演じているプレイヤーにおける「民族的アイデンティティ」の追求する必要性
4. 年代、男女、教育・文化的背景の違いの検討
5. 「マダン」が歴史的におかれてきた状況・条件を確認するために、より具体的にマダンのコア実行委員たちにインタビューを再度に行うことで確実性を増す。
6. 他の先行研究を幅広く検討することで研究課題の深化を図る。

以上により、東九条「マダン」の事例を通して、「伝統芸能舞踊」と「民族的アイデンティティ」との関連性を考察する。